



CONTENTS



- 理事長挨拶
- 学術研究助成事業
 - ・近年助成した研究からご紹介



- 食文化の振興・啓発および協賛活動
 - ・浦上ランチプロジェクト(ラオスにおける学校給食プロジェクト)
 - ・H28年度東日本大震災復興支援事業
 - ・カレーアクション事業を後援
 - ・フードピア金沢を支援
 - ・読売写真ニュースを学校に寄贈



- 設立30周年記念式典
 - ・お知らせ
 - ・事務局より
 - ・編集後記

理事長挨拶

私は近頃“地球は大丈夫かしら?”と心配になっています。温暖化の影響が今まで当たり前になっていた天候が狂ってきました。

今年には熊本・鳥取で大地震が起こり阿蘇の噴火、東北・北海道では台風により農作物が大被害を受けました。台風の進路も変わってきました。

一方、世界情勢も変化しています。世界中の注目を浴びていた米国大統領選挙は大方の予想に反しトランプ氏の勝利に終わりました。選挙中も政策論争よりお互いに揚げ足取りの低調なもので、これからの米国の指導力には疑問が残りました。イギリスも国民はEU離脱を選びました。アジアにおいてもフィリピンが中国に大接近し、今までのアメリカ主導の情勢が変わりつつあります。私たち日本人はどのように舵取りすべきでしょうか?

2016年、私ども浦上財団は3月7日、ホテルニューオータニにおいて設立30周年記念式典を開催しました。30周年記念事業“トラベルアワード”の加藤先生、ランチプロジェクトを委託している民際センター秋尾理事長、東北震災支援について立花NPO代表の皆様にご講演をお願いしました。大画面での解説に会場の皆様も財団が実施している事業に

共感していただきました。

4月からは31年目が始まりました。私ども財団の主たる事業である研究助成も本年度は245件の申請をいただき、17名の先生方に10月16日に贈呈式を行いました。本年度は初めて選考された大学の先生が6名含まれ、私ども財団の存在も広く知られるようになったことを心より嬉しく思っています。本年度31回目までの研究助成金額は累計9億8千6百万円になりました。来年度で10億を超えることと思います。感無量です。

9月には震災復興支援をした岩手県滝沢市で津波被害から内陸避難をしている皆様、そして宮城県塩釜市の寒風沢島での農業支援活動をしている皆様と意見交換してきました。現在でも課題は山積みでした。

もう一つの活動、ラオスランチプロジェクト(学校給食支援)も3年で自立という理想とはほど遠く、目が離せない状況です。“継続こそ力なり”と改めて決心しました。

設立以来、多くの皆様にお支えいただき、今日を迎えることができました。心より厚く感謝申し上げます。どうぞ今後ともよろしく願い申し上げます。



◀ 設立30周年記念祝賀会で挨拶する浦上節子理事長

主な活動紹介

学術研究助成事業

学術研究助成事業は財団設立以来の当財団の重要な活動のひとつです。研究テーマ1件当たり3百万円を限度とする通常の助成額は食に関する研究助成の中では高額にあたり、これは、設立当時の選考委員の助言で、少額を多くの人に配るよりも、まとまった額の助成の方が、研究がしっかりできるとのアドバイスを受けてのことです。

ホームページや研究機関へのはがき等で広く応募者を募り、6月1日から7月10日の申請期間に245件の応募を受付けました。9月初旬、学識経験者で構成される選考委員会で厳正な審査を経て研究助成17名の研究者への助成を決定しました。

贈呈式は10月16日にホテルニューオータニにて行われました。浦上理事長の「浦上財団のロゴ“食”は“人”に“良い”と書くよう人間にとって一番大事なものが食で、その食を研究なさっている皆様の成果で

様々な分野で活躍なさを期待しています。」との挨拶に続き、伏木選考委員会議長より選考経過の説明と研究者の方々への激励がありました。続いて各研究の代表者に理事長から目録が贈呈され、目録を手に各代表者が研究内容についてスピーチされました。

懇親会では打ち解けた雰囲気の中積極的な意見交換が行われました。おかげさまでこの31年間の助成件数は367件、助成金総額は9億8千万円余りとなりました。

助成した研究の成果は、浦上財団研究報告書としてまとめられ、これまで23号まで発刊されています。今年度も24号を発行いたします。今までの研究の一例を後ページに掲げました。一般の方にも解りやすい文章で寄稿していただきましたのでご一読ください。

 * 東京医科歯科大学の吉川宗一郎先生には
 * 2012年に研究助成し、財団ニュース2015に
 * その研究成果を寄稿していただきました。その
 * 後、海外雑誌 Biochemical and Biophysical
 * Reserch Communications に掲載されたとの
 * ご連絡をいただきました。当財団が助成した
 * 研究が発展していく様をともに喜びたいと思
 * います。自画自賛かもしれませんが、発展性のある
 * 課題・ご活躍なされる研究者を選考された選考
 * 委員の皆様の慧眼にも敬服するところです。
 * *****



懇親会風景



集合写真

～近年助成した研究からご紹介～

当財団が助成している研究の多くは学術的・専門的ですが、「食」は私たちの日常にも大きくかかわってきます。そこで今年3月発行した浦上財団研究報告書Vol.23に掲載された研究報告より2名の先生に研究の成果を解りやすく書き下ろしていただきました。

平成25(2013)年度助成

「クルクミンによる腸内細菌プロファイルの変化を介する肝がん抑制効果の検討」

東京理科大学・理工学部 大谷 直子



近年、肥満は糖尿病や心筋梗塞だけでなく、大腸がん、肝がん等、様々ながんのリスクファクターであることが指摘されています。しかし、その分子メカニズムの詳細は十分には明らかになっていません。私達は先行研究において、全身性の発癌モデルマウスを用いて、高脂肪食摂取に伴う肥満により肝がんの発症が著しく増加することを見出しました。興味深いことに、肥満すると、2次胆汁酸を産生するグラム陽性腸内細菌が増加し、体内で2次胆汁酸であるデオキシコール酸の量が増え、これが腸肝循環を介して肝臓の間質に存在する肝星細胞が細胞老化と細胞老化随伴分泌現象を起こし、肝がん促進的ながん微小環境を形成することが肝がん進展の原因のひとつであることを明らかにしました。食餌性に増加する腸内細菌に起因するがんであれば、その腸内細菌を増やさないような食品成分を探索し用いることで、がんの予防が可能になるかもしれません。そのような食品成分の候補として我々はクルクミンに着目しました。クルクミンは肝星細胞や腸管上皮に対し抗炎症作用を示すことが知られています。そこで、本研究では、肥満誘導性肝癌誘発実験においてクルクミン投与により肝癌の形成や腸内細菌の構成が変化するかどうかについて検討しました。その結果、クルクミン摂取により肝癌の形成率に有意な変化はありませんでした。しかし、腸内細菌の構成を調べると、クルクミン摂取により高脂肪食摂取と逆の傾向を誘導し、発がん予防的な腸内細菌の構成に変化する傾向があることが示されました。今後さらに解析を重ね、肥満誘導性肝癌を予防するプロバイオティクス研究やプレバイオティクス研究につなげていきたいと考えています。

<事務局注>

プロバイオティクス：ヨーグルトのように腸内環境を整える働きのある生きた微生物。

プレバイオティクス：オリゴ糖、食物繊維のようにプロバイオティクスの働きを助ける食品成分。

平成26(2014)年度助成

「鮎、牡蠣の香りの水晶振動子を用いた定性評価に関する基礎研究」

東洋大学総合情報学部 一橋 和義



この研究は、異なる環境で育った鮎や牡蠣の香りの違いを調べ、それを嗅ぎ分けられるようなロボットの鼻を作ること为目标としています。この鼻では注目したい香り物質の量をとても精密に測ることが求められます。そのために、香りを吸着する感応膜という物質を直径約1cmの非常に薄い水晶の円盤に塗ったものを使います。そして、その円盤を1秒間に約9百万回振動させながら、装置を使ってその振動数を精度良く測ります。このとき、注目したい香りを含んだ空気をかけるとその香りが円盤の表面にくっついて、円盤が少し重くなり振動数が減ります。この振動数の減った量から香りの量が分かるのです。

ちょうど香りを吸いつけられるワックスを塗ったうちわを高速であおいでいるところに香りのする空気が流れてきたら、うちわの表面に香りがくっついて重くなり、あおぐ速度が初めよりも遅くなったという感じです。

この鼻では特定の香り物質だけを吸着するように感応膜を工夫することで目的とする香りの量を比較的安価かつ容易に調べることができます。私たちは8種類の感応膜を同時に用いて、異なる環境で育った鮎や牡蠣の香りの違いを識別できるようなロボットの鼻を作ろうとしています。

鮎と牡蠣の重要な香り物質は、どちらもスイカ、キュウリ、マツタケの香りをそれぞれ特徴づける香り成分と同じでした。香り物質のバランスは異なりますが、鮎と牡蠣ではよく似た香り成分が関係しているのです。

私たちはこの鼻を使って、鮎や牡蠣の香りの良さの計測、水生生物の生息環境の評価、人間には判別できない香りの嗅ぎ分けによる様々な分野での環境評価、さらに病気の兆候の嗅ぎ分け等医療への応用などができればと考えています。

食文化の振興・啓発および協賛活動

カレーアクション事業を後援

昨年に引き続き今年も農業王国で地産地消に取り組む北海道と九州(4月札幌市、6月福岡市)における「カレーアクション」に後援しました。札幌フォーラムは10周年を迎え、北海道増毛町出身のオテル・ドゥ・ミクニのオーナーシェフ三國清三氏による講演に続き北海道各地の食材を使ったカレーの試食があり、九州会場では(株)香り戦略研究所の菅慎太郎氏による講演と九州各県特産の夏野菜を使ったカレーの試食とゆるキャラによるPRがありました。



札幌会場

講演する三國シェフ



福岡会場

サラダゴぼうとゴーヤのカレーをPRする鹿児島のおいどん君

フードピア金沢を支援

独自の食文化と石川県の冬の日本海の海の幸・加賀野菜を紹介する食のイベント「フードピア金沢」は毎年2月に金沢市及びその周辺地域で開催され、今年で31回目でした。当財団は第1回(1985年)より支援しています。

北陸新幹線が昨年3月に開通し、首都圏からのアクセスが便利になりました。従来の金澤老舗よもやま話などに加え金沢の町屋「食」めぐりなど新しいプログラムを開始するなど第31回では残したい古い伝統は守り新しいものを加えていく金沢らしいイベントとして発展しています。



金澤老舗よもやま話で映画「武士の献立」で監修した郷土料理について講演する大友楼7代目主人大友氏と紹介された料理(鯛の唐蒸しと雉の羽盛り)

読売写真ニュースを学校に寄贈

『「食」は「人」に「良」いこと、元気のもと』の標語をパネルに用い、「食育」に熱心に取り組んでいる小学校を軸に46の中学校、高校、図書館に教材資料として毎週写真ニュースを提供しています。

小学校等に寄贈しているパネルの一例



広報活動

研究報告書の発行

助成した研究のうち昨年秋までに報告をいただいた15件を浦上財団研究報告書Vol.23にまとめ今年3月に発行し、全国の研究機関附属図書館や都道府県立図書館にお送りしました。また、今年の秋までに当財団に提出された研究報告を収めた研究報告書Vol.24を来年3月に発行する予定です。



30周年記念誌の発行

設立30周年記念として「食を通じて地域を支える。食を通して未来にかかわる。～東日本大震災復興支援事業、ラオス・浦上ランチプロジェクト活動報告」及び「30年のあゆみ」を2月に発行しました。3月7日に開催された浦上財団30周年記念講演会・祝賀会にご出席いただいた方ははじめ関係各位に寄贈いたしました。



財団HPのリニューアル・財団リーフレットの配布、財団ニュースの発行

研究助成事業や復興支援事業の告知、申請や結果発表をはじめ、当財団の活動をHPにてお知らせしております。また昨年度より研究助成事業と震災復興支援の申請をオンライン申請にし、助成対象者との連絡を利便性を高めるためマイページでのやり取りに変更しました。

他にも財団の事業活動や寄付金の募集活動などを紹介したリーフレットや写真を多く使って12月にその年の活動をまとめた財団ニュースを発行しております。



設立30周年記念式典

浦上財団は平成27年度をもって設立30周年を迎えました。記念事業として海外の若手研究者向けに横浜で開催された国際学会への参加旅費支援事業「浦上財団トラベルアワード」と国内の若手研究者向けに「設立30周年記念学術研究助成」の2つの事業を行いました。また、平成28年3月7日にホテルニューオータニにおいて設立30周年記念講演会と記念祝賀会を開催し、あわせて記念誌を配布いたしました。

講演会では財団の活動に関係のある3テーマより東京大学特任教授の加藤久典氏による「浦上財団30周年記念事業ACN2015 浦上財団トラベルアワードの報告」、公益財団法人国際センター秋尾晃正理事長による「新たな歴史を創造するラオスの給食普及事業～夢の実現にむけて～」、公益社団法人 sweet treat 311 代表理事の立花 貴氏による「大震災で

人口の8割が流出した過疎地域からの挑戦～雄勝の未来が、日本の未来になる～」の3つの講演が行われました。

引き続きの祝賀会では理事長挨拶、ご来賓挨拶に加え30周年記念学術研究助成の贈呈式のほか理事長より財団を支えてくださっている理事、監事、評議員並びに選考委員の皆様への感謝の記念品贈呈が行われました。乾杯の後は皆様なごやかにご歓談いただき、華やかな中にも和気満々としたパーティーとなりました。

講演会、祝賀会には過去助成した研究者、復興支援対象団体など事業でご縁のあった方々、ご寄付など財団をご支援いただいている方々、他財団などお付き合いのある方々など約300名にご出席いただきました。浦上財団は40周年に向けこれからも精進してまいります。

〈 講演会 〉



講演する立花貴氏



講演会会場風景

〈 祝賀会 〉



設立30周年記念学術研究助成贈呈式での集合写真



祝賀会歓談風景

事務局より

お知らせ

浦上財団は公益財団法人ですので、ご寄付くださった皆様が減税を受けることができます。当財団からお送りする寄付領収書を添付して所得税の確定申告をなさってください。(2011年に設けられた税額控除には当財団へのご寄付は適用されません。)また、当財団は東京都条例により個人住民税の寄附控除が受けられる団体として指定されております。都内にお住まいの方は住民税欄・都民税の寄付金控除のご記載もどうぞお忘れなく(*^-^*)b

編集後記

ラオスのランチプロジェクトの特徴の一つに現金支出をできるだけ軽減するプログラムがあり、学校給食用の野菜・魚類を校庭の一部を活用して自ら育てていることです。地域に優れたリーダーがあり、子供たちへの給食の重要性を理解している村であっても厳しい雨季や乾季と闘いながら収穫を確保するのは難しく、その熱意をサポートする知識や支援の必要性を感じます。同じことが復興支援にも当てはまり、熱意ある人たちのサポートの重要性を感じた1年でした。浦上財団事務局はこれからも頑張ります。(森川洋典：浦上佳江)



〈 お問い合わせは下記まで 〉



公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団

〒102-8560 東京都千代田区紀尾井町 6-3 ハウス食品グループ本社ビル

電話：050-3532-6365 FAX：03-3264-6188

URL: <http://www.urakamizaidan.or.jp> (お問い合わせはHPのお問い合わせフォームをご利用ください。)